

作文コンクール・学生科学賞 県審査表彰

「第69回全国小・中学校作文コンクール」と「第63回日本学生科学賞」の県審査会の表彰式が9日、甲府市の読売新聞甲府支局で行われた。

「書く力仲間と磨く」

作文コンクールは中学校の部と小学校高学年の部から計9人が入賞。審査員を務めた県教育委員会義務教育課の小林知子指導主事は「身近な経験を題材にして自分自身を見つめ、深く考えた作品が多かった。一語一語から思いの強さが伝わ

り、読み手の心を揺さぶった。『書きたい』『伝えたい』という思いを大切に、表現する楽しさを感じてほしい」と講評した。

「祖父と私」で最優秀賞の県知事賞を受賞。「素晴ら



作文コンクールの受賞者

しい賞を受賞できてとてもうれしい。作文を通じて家族や自分自身のことを見つめ直すきっかけになった。これからも家族みんなで仲良く健康に暮らしたい」と喜びを語った。

小学校高学年の部で県教育長賞を受賞した佐野晴大君（身延町立身延小5年）は「ぼくは歩く」と題した

作文で、通学路の自然を生きたき生きた描写した。「歩く楽しさを伝えなかった。学校の宿題で毎日日記を書いているうちに、長い文章も書けるようになってきた。

クラスメートとアドバイスをし合い、書く力を磨きたい」と話した。各部門の最優秀賞2作品と喜びの声は後日掲載する。